

2022年6月10日

コロナ禍におけるウェルビーイングの変化と公正との関係 ～二極化と公正の効果～

千葉大学大学院社会科学研究院の小林正弥教授らの研究グループは、リーディング研究育成プログラム（現・国際高等研究基幹研究支援プログラム）「公正社会研究」（研究代表者：水島治郎）で、コロナ禍におけるウェルビーイングなどについて2回のオンライン調査を行い、先行調査とあわせ3回の調査を通じてWBが一貫して下落するとともに、精神状態と価値観が両極化し、他方、正義・公正がウェルビーイングに好影響をもたらしているということを見出しました。

本研究成果は、石戸光・水島治郎・張曉芳編『アフターコロナの公正社会——学際的探究の最前線』（明石書店、2022年）の第5章「コロナ禍における幸福度と公正——ポジティブ心理学からの考察」に掲載されました。

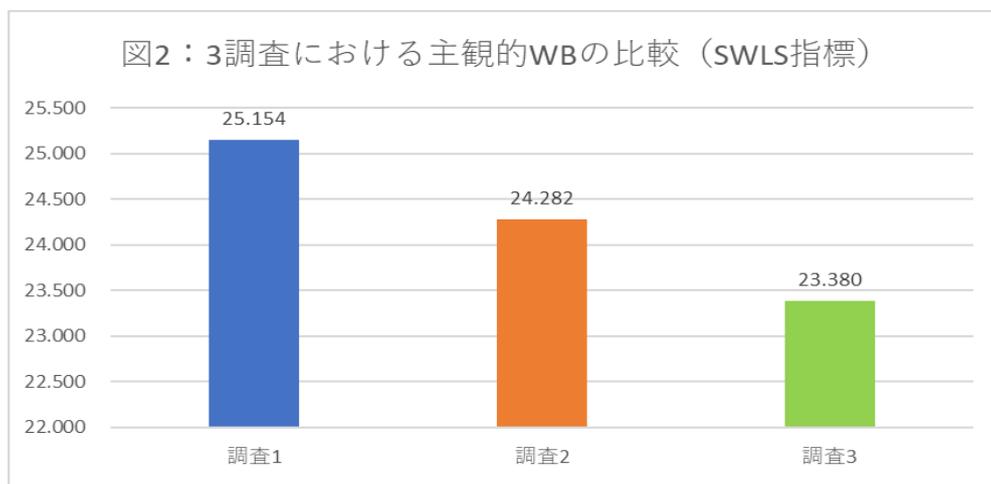
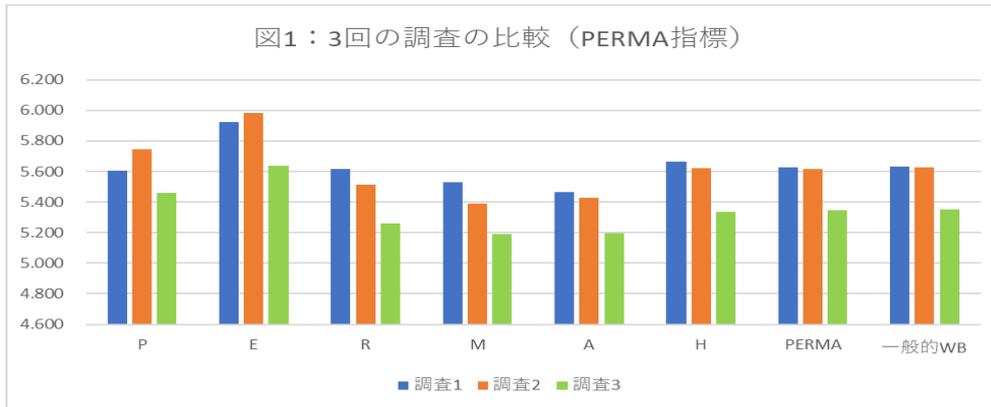
■研究の背景と方法

新型コロナ問題が深刻化してから、緊急事態宣言や行動・外出制限によって、多くの人々のウェルビーイング（以下、WBと略）が低下しているという印象があり、実際にうつ状態の人数や自殺率の上昇が報告されています。ポジティブ心理学などでは、人々のWBを調査する方法が開発・洗練されています。そこで本研究においては、この方法を中心にして、WBや価値観の調査を行いました。先行する調査（調査1：2020年5月、N5000）に続いて、本研究で2回のオンライン調査（2021年3月、N6885；2021年10月、N2658）を行い、あわせて3回の調査を分析しました。

■研究成果

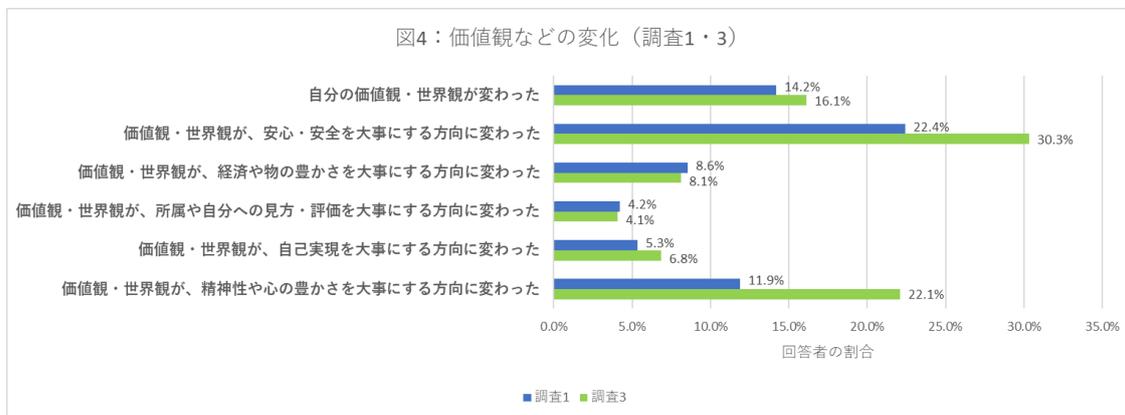
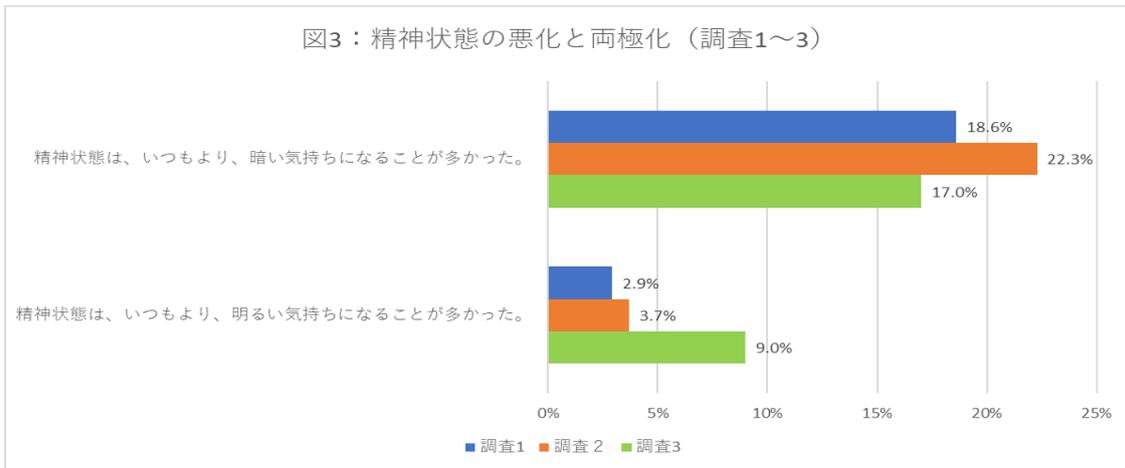
1. 幸福度の低下

調査1から調査3において、PERMA指標（ポジティブ心理学の創始者M・セリグマンらの理論に基づくWB指標）と人生満足度指標（SWLS：Ed・ディーナーが開発して世界でもっとも使われているWB指標）をはじめ、調査したほとんど全ての指標で、継続的な減少傾向が検出されました（図1・図2）。



2. コロナ禍における精神的変化の二極化と価値観における両極の増加

コロナ禍における精神状態の変化においては、悪くなったと答えた人が多かったものの、良くなったと答えた人も一定の割合あり、3回の調査で、いずれも二極化の傾向が現れました（図3）。また、価値観の変化も見られ、基本的・物質主義的な欲求の増大（安心・安全、ついで経済の重視）と精神的・脱物質主義的な欲求の増大（精神性・心、ついで自己実現の重視）という双方の傾向（欲求階梯論における両極の増加）が見られました（調査1・3、図4）。

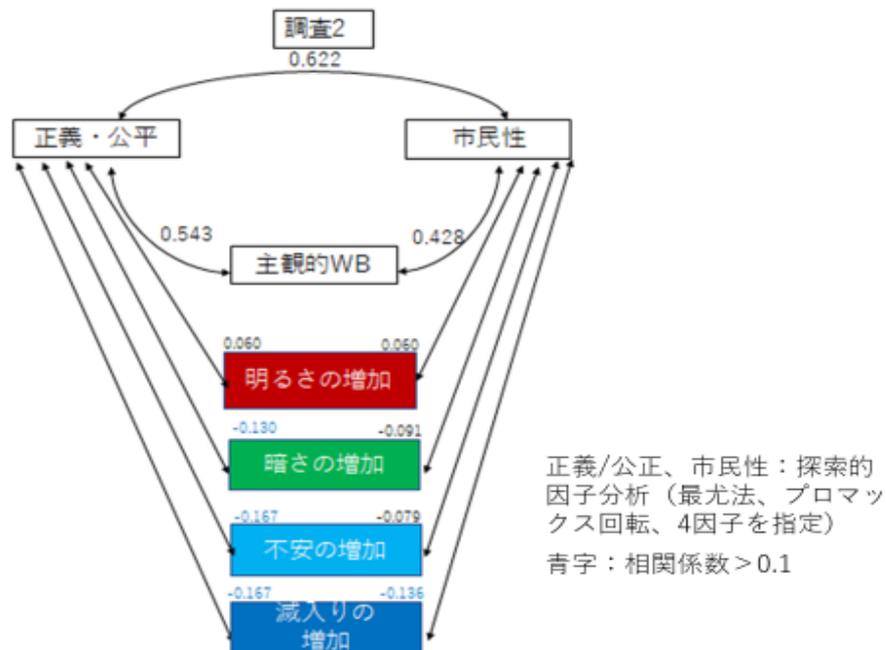


3. ウェルビーイングにおける正義・公正の好影響

正義・市民性と（主観的な）WB との関係については、調査1・2で共分散構造分析を行い、「正義・公正や市民性がWBに好影響を与えている」というモデルが、データと適合性があるという結果が得られました。さらに、コロナ禍における気分の変化に関して、調査2・3について、正義・公正と市民性の双方が、良い方向への変化（明るさの増加）と正の方向に相関しており、悪い方向への変化（暗さ・不安・滅入りの増加）と負の方向に相関しているという結果が得られました（図5）。

以上から、「公正・正義や市民性と、WBや明暗変化が関係している」という推論が成り立ちます。正義・公平や市民性とWBは正の方向で関係していて、コロナ禍における明暗変化とも関係しており、ネガティブ化の抑制では顕著でした。

図5：正義/公正や市民性と気分変化（明暗変化）との相関



■結論と社会的意義

以上から、特にコロナ問題の長期化に伴い、WBが低下していることがわかりました。同時に、WBと価値観について、継続的な両極化の傾向が判明しました。そして、明暗変化においては、公正・正義と市民性が、ウェルビーイングの増加と関係しており、コロナ禍においてはネガティブ化を抑制するという傾向や効果がわかりました。

このことは、本研究の主題である公正の重要性を表しています。公正が実現すれば、人びとの幸福感を増加させますし、コロナ禍において、気持ちが暗くなるなどのネガティブな方向への心理的变化を抑制し、若干はポジティブな心理的变化を促しています。従って、公正社会の実現は、一般的に人びとの幸福を増大させると共に、全世界的なパンデミックにおいて、ポジティブな心理を増大させて、ネガティブな心理への変化を抑制するという効果があると結論できます。

■謝辞

調査1は、三菱総合研究所の調査に小林教授が協力したものです。調査2と調査3は、科学研究費基盤研究(C)「ポジティブ政治心理学の理論と実証——政治システムと心理的ウェルビーイングの関係」(研究代表者・小林正弥、令和2年度～令和4年度)と連携して行われました。記して感謝します。

■ 本件に関するお問合せ

- 千葉大学国際高等研究機関研究支援プログラム 公正社会研究の新展開

TEL : 043-290-2375 E-Mail:leading-21@chiba-u.jp

- 千葉大学社会科学研究院 小林正弥教授

TEL : 043-290-2395 E-Mail : masayakobayashi@faculty.chiba-u.jp